中津川市立南小学校からのメッセージ　～学年担任制と教科担任制～

南小学校は、学校組織の協働体制を強化し、チーム学校としての組織的な教育力の向上を図るため、学年担任制（３～６年生）と教科担任制（３～６年生）を導入し、指導の質の向上に取り組んできました。学級経営委員会と研究推進委員会を両輪として組織的に機能させ、全教職員が一丸となって取り組んだ結果、一定の成果を得るに至っています。これらの取組を通じて、私たち教職員が具体的に見えてきたこと、現在考えていること、そして今後さらに考えていきたい課題についてまとめました。

低学年で学年担任制・教科担任制を実施しない理由

低学年の児童は、小学校の指導や生活に慣れることを最も大切にしています。特に、一人の担任との信頼関係を構築することで、小学校生活への安心感を育むことが重要であると考えています。

中津川市
教育の「方針と重点」

機能する組織 ともに考え　ともに動く　**面倒見のよい先生** 一人一人を大切にする　**身に付くまで** 丁寧に見届ける

学　年　担　任　制

≪学年担任制の運用上のポイント≫

✓綿密な情報共有と共通理解のための定型的な打合せを実施します。
✓臨機応変な対応を可能にする連携体制を構築します。
✓各担任の役割を明確にし、児童・保護者へ周知徹底します。

≪より効果を高めるための共通するポイント≫

✓効率的な打ち合わせ時間を確保します。

指導の均質化を図るため、学級経営や学習指導に関する打ち合わせ時間を効率的に確保し、教員ごとの指導の差を最小限に抑えます。

✓計画的な人材育成の見通しをもちます。

計画的な人材育成のために、一人の教員としてのバランスの取れた成長を促します。特に若手教員については、生徒指導力や教科指導力を総合的に高められるよう、校務分掌や担当教科を計画的に分担します。

教　科　担　任　制

≪教科担任制の運用上のポイント≫

✓指導の質向上を目的とした共通指導・評価の確立を図ります。
✓学級経営と連携したきめ細やかな児童理解に努めます。
✓計画的なＯＪＴを通じた若手教員育成を推進します。

【児童に対する効果】教員の指導力向上と安定した学校生活は、児童の質の高い学びを保障します。

- 資質・能力の向上　多様な指導方法や視点に触れることで、児童の思考力、判断力、表現力等といった資質・能力が総合的に高まります。
- 主体的な学習態度の向上　複数の教員からのきめ細やかなサポートを受けることで、児童が安心して学習に取り組み、主体的に学習に向かう態度の向上が期待できます。
- 自己肯定感の育成　多角的な視点から児童の長所や努力が認められる機会が増えるため、自己有用感や自己肯定感を高めることができます。

【教員・学校組織に対する効果】教員個々の成長と組織全体の強化が同時に期待されます。

- 教育観・指導観の深化と広がり　教員同士が連携し、互いの指導法や教育理念を共有することで、自身の教育観や指導観を多角的に見つめ直し、深める機会が得られます。
- 児童理解の深化ときめ細やかな指導力の向上　複数の教員が児童の様子を多角的に観察し情報を共有することで、一人の児童に対する理解が深まります。これにより、個々のニーズに応じたきめ細やかな指導力の向上につながります。
- 学校組織の協働体制の強化　日常的な連携を通じて、教員間での相互理解と協力が促進され、チーム学校としての組織力が向上します。これにより、学級担任が課題を一人で抱え込むことを防ぎます。

	学年担任制のメリット	学年担任制のデメリット	教科担任制のメリット	教科担任制のデメリット
児童	○多角的な視点から成長が承認され、自己肯定感を育成できます。 ○多様な価値観に触れ、社会性を養うことができます。 ○相談窓口が多様化することで、安心感を確保できます。 ○複数の教員の専門性に基づき、きめ細やかな指導を受けることができます。	●多角的・継続的な評価の機会が減る可能性があります。 ●指導方法の不統一により児童が混乱し、適応への負担が増すことがあります。 ●精神的な拠り所が不明瞭になり、安心感を欠く可能性があります。	○各教科の専門性に基づいた質の高い指導を受けることができます。 ○指導の標準化により、学びの機会の公平性が確保されます。 ○多様な大人との関わりにより、社会性やコミュニケーション能力を育成できます。	●教科担任ごとの規律や規範が異なることで、学習行動に混乱が生じることがあります。 ●指導者によって学習姿勢を使い分けることにつながる可能性があります。
教員・学校組織	○負担を軽減し精神的な孤立を防止できます。 ○計画的なＯＪＴにより、若手教員を育成できます。 ○多角的な視点から児童への理解を深めることができます。 ○専門性や得意分野を活かした指導ができます。 ○役割分担に基づき、チーム指導を効率化できます。 ○学年全体の業務を効率的に分担し、平準化できます。	●個々の児童の観察や見届けの機会が減る可能性があります。 ●指導レベルを標準化・均質化することが難しくなります。 ●学級経営における担任の裁量が制限されることがあります。 ●経験豊富な教員に業務が集中し、負担が増すことがあります。 ●総合的な学級経営力の育成機会が制限されます。	○教材研究を集中的に行うことで、専門性を向上できます。 ○評価規準を統一化し、公正で客観的な評価を実現できます。 ○授業準備・教材研究に充てる時間を確保し、効率化できます。 ○多角的・多面的な視点から、深い児童理解を促進できます。 ○相互の授業参観を通じて、指導技術を向上できます。	●児童の生活面を含めた全人的な理解が難しくなる可能性があります。 ●時間割変更や弾力的な授業運営が難しくなることがあります。 ●教科間の連携不足により、教科統合的な指導の機会が減ります。 ●他教科の指導技術の習得機会が制限されます。 ●特定の教科指導経験が偏り、総合的な指導力の育成が遅れる可能性があります。

学級経営委員会　　研究推進委員会